

平成三十年十二月十八日

日本医学会分科会用語委員会

「奇形」を含む医学用語の置き換え提案

日本小児科学会からの経過報告

日本小児科学会
用語委員会担当理事

森内浩幸

用語の置き換えを検討する対象

A) 学術的に定義が曖昧もしくは不正確な用語

A) 患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある用語

1. 差別や侮蔑の意を含む用語
2. 動物の名称を含む用語
3. 歴史上の人物や小説の名称を用いたもの
4. それ自体に差別や侮蔑の意図はなくても、非常にきつい響きがある言葉

患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある医学用語の例

1. 差別や侮蔑を含む語義

明らかに、差別や侮蔑の意味を含む用語。多くは既に不適切用語として認識されている。特定の国名や、特定の家系の名称を含むもので、多くは既に使用されなくなっている。

発見者のDown医師は、「白人なのに自分達より劣ったモンゴロイドの遺伝子を持って生まれた子ども」と考えた。

対象語	(英語)	置換ええ語	(英語)	
猿線	Simian Crease	手掌単一屈曲線	Single transverse palmar crease	小児科学会用語集では【不適切】と記載
蒙古症	mongolism	Down症候群	Down Syndrome	1965年、モンゴルからの抗議でWHOは蒙古症(モンゴロイド)の名称を中止。1971年、NIHはDown syndromeを勧奨。
反蒙古様眼裂	Antimongoloid eye slant	眼瞼裂斜下	Downslanted palpebral fissures	Human Phenotype Ontology (HPO) で既に置き換え
蒙古斑	Mongolian spot		Blue nevus	HPOで既に置き換え

患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある医学用語の例

2. 動物の名称を含む用語

近年、動物名を含む名称は、全て不適切とされる。

対象語	(英語)	置換え語	(英語)	
牛眼	bull's eye	先天性緑内障	congenital glaucoma	医学用語集に【旧】で掲載。
猫鳴き症候群	crying cat syndrome	5p欠失症候群	5p- syndrome	小児科用語集【旧名】と記載。医学用語集に掲載。HPOなし。
蜘蛛状指	arachnodactyly	細い指、長い指	long finger, slender finger	医学用語集に掲載。
鵝口瘡	thrush	口腔カンジダ症	oral candidiasis	小児科用語集には残る。日本医学会では口腔カンジダ症を推奨。HPOにはない。
獣皮様母斑	giant hairy nevus	巨大色素性母斑	giant pigmented nevus	用語集に記載なし。
兔唇	harelip	口唇裂	cleft lip	医学用語集に【旧】で掲載。
獅子鼻	pug nose	前向きの鼻孔	anteverted nostril	医学用語集に掲載。



~~牛眼~~



~~兔唇~~

動物の名称を含む用語



~~獅子鼻~~



~~猿線~~

患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある医学用語の例

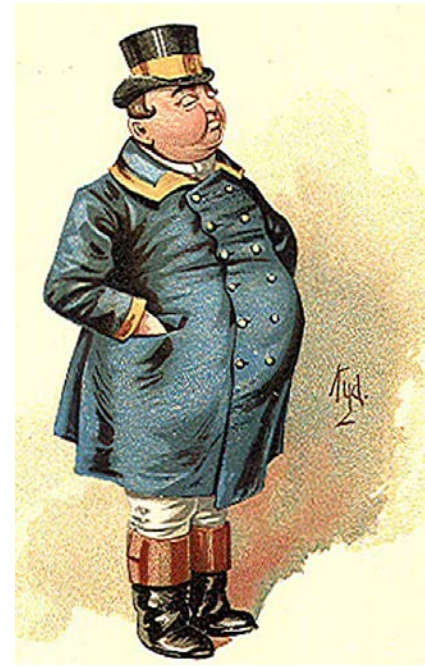
3. 歴史上の人物や物語の登場人物に由来する用語

特定の人物の名前は、患者や家族に不快感を与えることがある。

対象語	(英語)	置換え語	(英語)	
ハプスブルク家の顎	Hapsburg chin	下顎前突	prognathism	
ピックウィック症候群	Pickwickian syndrome	睡眠時閉塞性無呼吸	Sleep obstructive apnea	ディケンズの小説の登場人物



ハプスブルク家最後の国王
カルロス二世(スペイン)



患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある医学用語の例

4. それ自体に差別や侮蔑の意図はなくても、 非常にきつい響きがある言葉

日本語では「精神分裂」
「痴呆」「害」というnegative
なイメージが、直感的かつ
瞬間的に伝わってしまう

欧米人であっても、これら
の言葉から直感的または
瞬間的にnegativeなイメー
ジを抱くことは少ない

対象語	(英語)	置換え語	(英語)
精神分裂病	schizophrenia	統合失調症	
痴呆症	dementia	認知症	
障害		障がい	
障害者	handicapped (or disabled) people	障がい者	(physically) challenged people

患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある医学用語の例

4. それ自体に差別や侮蔑の意図はなくても、 非常にきつい響きがある言葉

医学的にやや不正確でも、また国語的に
少々不自然でも良しとした。

対象語	(英語)	置換え語	(英語)
精神分裂病	schizophrenia	統合失調症	
痴呆症	dementia	認知症	
障害		障がい	
障害者	handicapped (or disabled) people	障がい者	(physically) challenged people

いろいろなケースがあります

- くる病は「佝僂(せむし)」という言葉に由来する差別語。しかし誰もその謂れを知らないために、患者・家族も差別とは感じていない。
- 日本ウイルス学会への訴え:野呂さんから「ノロウイルスというのは変更してくれ。うちの子が学校でいつもからかわれて可哀想だ！」
- ある患者会の親のつぶやき:「ダウン症候群というのは下向きで良くない。アップ症候群に変えることは出来ないのか？」

日本小児科学会からの提案の背景

- 語義の異なる様々な医学英語の訳に「奇形」が当てられている。
- 臨床の現場(特に小児科臨床)で患者・家族への説明を行う際に、「奇形」という言葉は非常にきつい響きがあり、精神的ダメージを与え尊厳を損ねる恐れがある(実際にそういう声が上がっている)。
- 本来の意味から逸脱したり医学的に不正確になったりするようでも、患者や家族が不快に感じる医学用語を置き換える流れが出来ている。

「奇形」はそんなに“きつい”響きのある言葉？

「奇」という言葉そのものは「普通と違っていること」「不思議なこと」という意味なので、「奇形」にもそんなに差別的な意味合いはないはず。

しかし、かつては「**畸形**」という字が当てられていた。

「**畸**」には「はした」や「珍しい」という意味(訓読み)に加え、「**かたわ(片端、片輪)**」という意味(訓読み)もあり、「不完全なもの、不恰好なもの」という意味合いで、かつては「**肉体的または精神的に役に立たない人**」のことを「**かたわもの**」と蔑む傾向があった。そのため、現在日本の多くのメディアでは差別用語として放送禁止用語に挙げられている。

その一方で、「障害」と「かたわ」のどちらの方が“きつい”表現なのか?“言葉狩り”ではないのか? という議論もある。

これまでの経緯

- 2014年7月24日の日本医学会医学用語管理委員会で、日本小児科学会で「奇形」を含む医学用語の置換えを検討しており、骨子がまとまったら日本医学会全体はもちろん、その他の関連学会やマスメディアなども含めた議論の中で進めて行きたいと発言した。
- 2016年6月16日に第149回日本医学会シンポジウム「医学用語を考える～医療者・市民双方の視点から～」における「子どもでもわかる説明、子どもも親も傷つかない表現を目指して」の講演の中で、「奇形」の問題も取り上げた。
- 2016年12月15日に日本小児科学会から、日本医学会分科会にアンケートを送付。
- 2017年12月22日の日本医学会分科会用語委員会でアンケート結果を発表し、これを元に日本小児科学会でさらに検討し、再度日本医学会に提案すると発言した。
- 2018年11月25日の日本小児科学会理事会で、現時点での提案内容として別紙のものを承認した。

「奇形」言い換え検討

日本医学会 患者・家族の心情配慮

医療現場で長年使われてきた医学用語「奇形」について、日本医学会は、患者や家族の心情を傷つけやさないとして、別の言葉に言い換える検討を始めた。候補

この記事の後、m3.comなどで賛否両論が飛び交いました。

「『奇形』は『奇形』なんだから、いちいち言葉狩りなんかしないで、そのまま使えばいいじゃないか。」

「そもそも『形態異状・形態異常』という言葉だって差別語じゃないか。『形態的特徴』くらいにしないと駄目駄目。」

としては「形態異状」「形態異常」などがあり、今年度内の決定を目指す。

医学用語は専門的な言葉で、病名や症状の表記が混乱しないよう、各学会などが話し合った上で、日本医学会が統一した言葉を用語辞典に掲載。学術論文のほか、日常の診察では、カルテの記録や、患者と家族への病状説明に使われる。

「奇形」は以前から、「当事者の子どもや親を傷つけやすい」という声が多かったため、医学的にもニュアンスが正しく伝わる別の言葉へ言い換えることにした。

「奇形」は、生まれつき姿形が正常でない状態で、英語では'anomaly'、'malformation'など複数の言葉がある。日本医学会の医学用語管理委員を務める森内浩幸・長崎大教授(小児科)は「医者だけでなく、患者や家族も違和感なく使える言葉にしたい」と話している。

これまでの経緯

- 2014年7月24日の日本医学会医学用語管理委員会で、日本小児科学会で「奇形」を含む医学用語の置換えを検討しており、骨子がまとまったら日本医学会全体はもちろん、その他の関連学会やマスメディアなども含めた議論の中で進めて行きたいと発言した。
- 2016年6月16日に第149回日本医学会シンポジウム「医学用語を考える～医療者・市民双方の視点から～」における「子どもでもわかる説明、子どもも親も傷つかない表現を目指して」の講演の中で、「奇形」の問題も取り上げた。
- 2016年12月15日に日本小児科学会から、日本医学会分科会にアンケートを送付。
- 2017年12月22日の日本医学会分科会用語委員会でアンケート結果を発表し、これを元に日本小児科学会でさらに検討し、再度日本医学会に提案すると発言した。
- 2018年11月25日の日本小児科学会理事会で、現時点での提案内容として別紙のものを承認した。

「**奇形**」という用語の置き換えは検討すべきか？

A) 学術的に定義が曖昧もしくは不正確な用語

A) 患者や家族の尊厳を傷つける恐れのある用語

1. 差別や侮蔑の意を含む用語
2. 動物の名称を含む用語
3. 歴史上の人物や小説の名称を用いたもの
4. それ自体に差別や侮蔑の意図はなくても、非常にきつい響きがある言葉

日本医学会医学用語集に掲載されている「奇形」を含む用語

anomaly	奇形
abnormality	奇形/異常/異常性
defect	奇形/欠損
deformity	異常/変形/奇形/変態/形質転換/異常性
dysgenesis	奇形
dysmorphism	奇形
malformation	奇形
monster	奇形/奇形体
teratoma	奇形腫
teratology	奇形学
congenital anomaly	先天奇形
cardiac anomaly	心奇形
Epstein anomaly	エプスタイン奇形
Arnold-Chiari malformation	アーノルド・キアリ奇形

医学的意味合いが異なる複数の英語用語に対して、「奇形」の日本語が当てられていて、本来の語義との対応が不明瞭。

「奇形」を含む医学用語の置き換え提案

【置き換えの原則】

「奇形」を含む医学用語は非常に多いため、以下の原則に沿って、個々の用語の置き換えを検討していく。

1. 「奇形」という日本語が充てられることが多い以下の用語について、原則的に右側に示す日本語を充てるようにする。

anomaly 先天異常、先天性〇〇異常、異常

deformity 変形

malformation 形成異常

(註:「形成異常」という日本語が充てられている英語用語に「dysplasia」があるが、こちらの日本語は「異形成」を代表語として差別化を計る。)

代替案)

「奇形」の置き換えとして、字数も音節数も同じである新語、「違形(いけい)」を充てる。

2. terato- を含む用語については、それぞれ以下のように置き換える。

teratoma 奇形腫 → テラトーマ

teratogen 催奇形因子 → 胎児毒性因子

teratology 奇形学 → 先天異常学

3. 臓器名や人名に続いて「奇形」が置かれている用語については、以下のような言い換えをする。

〇〇(臓器)奇形 → 先天性〇〇疾患

(例:先天性心血管奇形 → 先天性心血管疾患)

◎◎(人名)奇形 → ◎◎病

(例:Arnold-Chiari奇形 → Arnold-Chiari病)

4. その他の用語の置き換え例

Dysmorphology 奇形学、異常形態学 → ディスモルフロジー

5. 以下の語は置き換え候補がまだ十分定まっていない。取りあえずの例を挙げているが、学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換ええないという選択肢もある。

teratogenesis 催奇形 → 形成異常誘発 または 形成異常発生 または 催違形

teratogenicity 催奇形性 → 形成異常誘発性 または 催違形性

major anomaly/malformation 大奇形 → 大異常 または 大違形

minor anomaly/malformation 小奇形 → 小異常 または 小違形

主な回答(抜粋)

- そもそも欧米の医学用語がとくに言い換えをしていないのに、その語から翻訳された日本語の用語で言い換えを必要とするのか、ということも考えておくべきことかと思えます。「奇形」も同様に日本語では身体の形が奇妙だという意味が伝わりますが、「anomaly」ではそのようなイメージは浮かびにくいでしょう。(中略)。要するに、**意味を直感的に伝える力をもっている日本語の特殊事情**ということになります。用語の言い換えをすることは、病気に対する社会のイメージを改善することが期待できます。その一方でデメリットもあり、欧米の用語が持っている本来の意味から外れてしまう、欧米語の用語との対応関係がわかりにくくなる、用語を変更することで過去の文献の検索や引用が難しくなります。**そもそも用語を変更するということは特段の事情がある場合にのみやむを得ず行うことであり、また必要最小限にとどめるべきこと**であります。**古い用語を削除するのではなく、並記して残すことが望まれます。**(IS学会)

- WHOが2001年に制定した国際生活機能分類でも、**マイナスイメージを持つ用語を使用しないように配慮がされています**。日本小児科学会の今回の提案趣旨については、全く異論はございません
- 患者・家族の心情の**精神的ダメージが強いと考えられる欧語を最優先して、論議**することが望ましい(RHT学会)
- この「奇形」は日本医学会の各分科会が取り扱う「奇形」を含む疾患により捉え方が異なると考えられます。委員らの回答では、「奇形」という言葉がご家族に強い精神的ダメージを与えてしまったとういような臨床上の経験がある者はおりませんでした。よって、**患者・家族を含む社会全体が本当に「奇形」の除外を望んでいるか違和感**があった。
- また最近になって流れとして、逆に「奇形」を含む疾患名に変わりつつある「リンパ管奇形・血管奇形」(リンパ管腫・血管腫)もあります。(SG学会)

総論としての意見のまとめ

- ◇ **患者家族への配慮**による置き換えには総論としては賛同する意見が多数。
 - 削除ではなく**併記**を望む。
 - 診療科による患者・家族への心理的影響の差を感じる(小児科以外では少ない)。**患者に影響のある用語を抽出して検討**してはどうか。
 - **医学的、科学的、言語学的、社会的根拠**を十分に検討すべきである。
 - **社会的な影響への配慮**を望む。
 - **医学系以外の学会への配慮**が必要。

提案1 に対する意見

提案1. 「奇形」という日本語が充てられることが多い以下の用語について、原則的に右側に示す日本語を充てるようにする。

- anomaly 先天異常、先天性〇〇異常、異常
- deformity 変形
- malformation 形成異常

- 主な意見またはコメント

- Anomaly も malformation も 形成異常ではどうか(JK学会)
- これらの用語は置き換えが比較的容易である。むしろ、今まで奇形という訳語を主に使用していたことの方が問題と考える(RH学会)。

- **賛同意見が大多数**であり、異議の意見も上記の1件だけであった。英語の語義に対応した訳語であるために受け入れられやすい。

提案1 「奇形」の置き換えとして、字数も音節数も同じである新語、「違形(いけい)」を充てる。

賛成意見と反対意見のどちらも多かった。

主な意見

- 「奇形」の置き換えに「違形」を充てる案については、腫瘍学の分野でatypiaの日本語訳として広く用いられている「異型」と紛らわしいとの印象を感じました。音が同じであるため、混乱を招く恐れがあります(NG学会)
- 「違形」が「奇形」に置き換えるべき用語として適当かどうかは疑問があると思います。(KKS学会)
- この代替案に反対します。先天異常は代謝異常なども含む広い概念であり、奇形はそのうち肉眼形態的な異常、と定義しています。奇形と同様に肉眼的な形態を明示しないという観点から、「違形」との代替案に反対し、最後の大奇形、小奇形の置き換えについては、大異常、小奇形を希望いたします。「違形」は、一見配慮しているようで、あえて造語したにもかかわらず、本質的に奇形と同じ形の違いを明示している点で、改善として不十分と考えます。(SI学会)
- 奇形に置き換えて「異形」を提案 (HKK学会)
- 仮に「違形」を採用したとしても、時間が経つうちにこの言葉が現在の「奇形」と同様なニュアンスを持って使われるようになる(MK学会)

提案2 に対する回答

terato- を含む用語については、それぞれ以下のように置き換える。

- teratoma 奇形腫 → テラトーマ
- teratogen 催奇形因子 → 胎児毒性因子
- teratology 奇形学 → 先天異常学

主な意見

- 胎児毒性では形態異常を惹起するニュアンスを表せない(NK学会)。
- 診断名に用いないものは、そのまま良いのではないか(JK学会)
- 「異形(いぎょう)」には、普通と違った怪しい姿・かたちをしていることという意味があり、terato-の語源に対応している。異形腫、催異形因子、異形学を提案(NRH学会)。
- teratogenに先天異常誘発因子、teratogenに先天異形因子、teratologyに先天異形学を提案(SK学会)
- 病名については「奇形」の語を排除するとしても、teratogen やteratology については個人のことではないので患者への精神的ダメージを考える必要は無い。「奇形」の語を残してもよろしいのではないか。(MK学会)
- テラトーマに同意できません。奇形腫の用語で、例示のごとく問題となった話を聞きません。
- 催奇形性はそのまま(学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換えない) teratogenesis 催奇形 teratogenicity 催奇形性 (SG学会)

teratoma をテラトーマとする案は賛同意見が複数あった。日本語を原則とすべきとの意見や、催奇形性因子や奇形学は**患者の疾患名ではないので患者へのダメージは少なく、置換えの必要性が少ない**とする意見が本疾患を扱う領域の分科会から上げられた。

提案3に対する回答

提案3. 臓器名や人名に続いて「奇形」が置かれている用語については、以下のような言い換えをする。

- ✓ ○○(臓器)奇形 → 先天性○○疾患(例:先天性心血管奇形 → 先天性心血管疾患)
- ✓ ◎◎(人名)奇形 → ◎◎病(例: Arnold-Chiari奇形 → Arnold-Chiari病)

主な意見

- 変換後の用語の意味が認識できるため、妥当と思われました。(SG学会)
- 先天性心血管疾患ではファジーである。(Q学会)
- 提案1の原則に準拠すればArnold-Chiari奇形は Arnold-Chiari形成異常で良いのではないか。(NR学会)
- 先天疾患は一部の診療行為では、保険診療上は適応疾患となっており、置き換えにより保険診療の適応からはずれないよう、病名については先天異常が望ましい(SI学会)
- 先天性○○異形、Arnold-Chiari 異形を提案 (HK学会)
- 「脳奇形」を心奇形の例にならって「先天性脳疾患」と置き換えるのは、意味が不明瞭となる(形態異常か機能異常か不明である)ため不適切であり、「脳形成異常」がより適切と考えます。(SB学会)

人名の入った病名から「奇形」を除くことに賛同意見が多かった。「先天性○○疾患」については上述のような異論も見られた。

「奇形」を含む用語の置き換えの例

医学的な正確さに拘るなら「変な」病名～なぜなら、遺伝子の変化によって起こる疾患の中には「機能的」異常のみで「形態的」には正常なものも多いから、という批判。

Congenital anomaly syndrome 先天奇形症候群	「染色体及び遺伝子 の変化による疾患」	厚生労働省の小児 慢性特定疾病事業
Congenital heart anomaly 先天性心奇形	Congenital heart diseases 先天性心疾患	小児科学会や小児 循環器学会ではほ ぼ定着

医学的な正確さに拘るなら「変な」病名～なぜなら、「形態的異常」だけでなく、不整脈のような「機能的異常」のみのものまで含まれてくるから、という批判。

提案4, 5に対する回答

提案4, 5

teratogenesis 催奇形 → 形成異常誘発 または 形成異常発生 または 催違形

teratogenicity 催奇形性 → 形成異常誘発性 または 催違形性

major anomaly/malformation 大奇形 → 大異常 または 大違形

minor anomaly/malformation 小奇形 → 小異常 または 小違形

以下のように異論は少なくなかった。

主な意見

- 「胎児毒性因子」では胎児に毒性を発揮するものはすべて「胎児毒性因子」となってしまいます。奇形を惹起するというニュアンスがありません。「胎児催異形性因子」や「胎児催違形性因子」など工夫が必要とと思います。(NK学会)
- 催奇形 → 形成異常誘発 または 形成異常発生。催奇形性 → 先天異常誘発性。大奇形 → 大異常。小奇形 → 小異常。以上を提案します(SI学会)
- 個人に対する用語ではなく患者にダメージを与えるとは考えにくいので置換えは不要と考えます。(MK学会)
- 催奇形、催奇形性に関しては、薬剤の添付文書などにも及ぶため、置き換えにはさらに議論が必要と思われる(SS学会)
- 催奇形性はそのまま(学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換えない)(SKG学会)
- 日本語に置き換えるよう努力していただくのがよいかと存じます。
- dysmorphology 奇形学、異常形態学 → ディスマルフォロジー (IKY学会)
- 大異形、小異形を提案(HK学会)

日本小児科学会における「奇形」を含む医学用語の置換えに関する見解案について

日本小児科学会用語委員会では「奇形」およびこの言葉を含む医学用語につきまして、可能な限り別の言葉に置き換えることを検討しております。

「奇形」という言葉は臨床の現場で当事者(患者や家族)への精神的ダメージが大きく尊厳を損なう恐れのあるため、医学的に厳密な意味での正しさよりも、当事者の心情を優先したいと考えてのことです。

これまで何年にも渡って検討を重ね、日本医学会のすべての分科会からもご意見を募ってまいりましたが、これまでいただいたご意見を踏まえて本学会内でさらに検討を重ねた結果、現時点での見解案として以下のようにまとめました。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

<現時点での見解案>

1. **病名に付いている「奇形」は置き換える方向で進める**(例: Epstein奇形→Epstein病、Chiari奇形→Chiari病など)
2. **病名以外の医学用語としての「奇形」を置き換えるべきかどうか、置き換える場合も「稀形」を含む種々の置き換え案などが出ており、また一律に置き換えるのではなく一語一語検討する必要性も指摘されるなど様々な意見が出ており、**今後も慎重に検討を重ねる。****

以上の方向性での議論を進めていくために、日本医学会内で関連の深い分科会の代表者や日本医学会外でも関連する学術団体等も含めたメンバーでワーキンググループを立ち上げ、慎重な議論を進めていくことを提言させていただきたく存じます。

ご検討のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

日本小児科学会から日本医学会への提案

- 「奇形」および関連した先天異常学・発生学・遺伝学的用語で、患者や家族にとってつらい響きのある医学用語の置き換えなどを検討するために、この問題に関与が大きい、または関心の深い分科会、および日本医学会以外の関連学会が寄り合って、話し合う場を持つ(ワーキンググループを結成する)。
- 進捗状況は随時日本医学会医学用語委員会にも連絡し、提言がまとまったら関連学会全て、そしてマスメディアにも通達し、public commentsも得るようにする。
- このような過程を経て、十分な審議の元で同意が得られたら、「奇形」および関連する医学用語の置換えを提言する。

- ✓ 医学的な正しさに拘って、患者・家族の心情を無視してはいけない。
- ✓ その一方で、医学的に違和感が強すぎたり、「病気ではない」ように扱うことにもデメリットがある。

→ バランスの取れた議論で着地点を！！